

# ス・ユ・ニ・日・中

版 コ ス シ

道新 10/66

甲口新 10/72

高知新 10/21

新愛媛 10/79

雪と氷の祭典 - 札幌, 120? 167頁 (本編ト77へ追加)

季ラインのあけぼの - 167頁 (本編ト77へ追加)

本編同い No. 4 1 6 36. 1. 5

## 一、迎 春

良き年をお迎えになった皇室御一家では、三つの春を迎えすつかりやんちゃになった浩宮さまが話題の中心。めつきりおふけになったおしいちやま、おばあちゃまの両陛下はやんちゃ坊やのお相手は何よりもお楽しみのご様子です。

さまざまな話題を呼んだ所得倍増政策もいよいよ二年目、池田首相は年頭の辞で、今年は貿易の自由化に対処して安定した経済成長の基礎を固めなければならない大切な年だと強調しました。

## カメラ風土記

### 一、長生きの村

— 広島

尾道から船で僅か十分。瀬戸内海に点在する島々に、向島という人口千三百人足らずのひなびた漁村があります。太陽を南にうけて耕して天にのびるゆるやかな斜面には露地栽培のお花畑もある南国の風土。そうした天然の環境に育まれて、ここでは元氣な老人たちの姿にやたらとお目にかかります。それもその筈、この立花部落は全人口の一割を老人で占めるという日本一の長寿の村でもあるのです。

だがその反面、日本一の粗食の村でもあります。元米米がとれないため、主食といえは麦やサツマ芋。それに子供の頃から小魚を骨ぐるみ食べる習慣が不老長寿の大きな理由になっているのです。

さらにその上、"世ゆずり"と昔からの風習があり、これは息子夫婦に全権を明け渡すという謂ば古くして新しい隠居制度です。そして気ままに余生をたのしむところに第二の秘訣があるといえるようです。そこには老賤の面影など微塵もなく、天心らんまんに天寿を全うする素朴な晩年の生活を見ることができるとです。

### 一、土によせて

土一升、金一升。都会の土は異常な高値を呼び東京の銀座通りはたった一坪が数百万円もします。住宅地も足りないばかりで、郊外は田舎は勿論山まで削って住宅地造りです。しかしこの値段の高騰ぶりには「自分の家を」という庶民の願ひもただの夢に終りそうです。

土地不足の都会から農村へ、今や工場も娯楽施設も移動をはじめ茨城県には一つの村の中に四つもゴルフ場ができる場所すら現れました。かくして都市近郊の農村や、大がかりな農業を営む農家からは明るい話題が伝わって来ます。しかし、山狭の地に生活を求めていった山の民は厳しい自然の中で孤独のたたかいをつづけています。集中豪雨をうけた伊那谷ではついに立ち上れぬ部落が続出。山を降りる金もなく、厳寒の冬をバラックの中でどうやって過すのでしょうか。

御題「土」によせて、土の与えた明暗の話題を拾いました。

637頁

217頁

246頁

134頁